

「函館市観光基本計画（素案）」に対する  
パブリックコメント（意見公募）手続の実施結果について

案件名	函館市観光基本計画（素案）
募集期間	令和5年12月6日（水）～令和6年1月5日（金）
担当課	観光部観光企画課
意見提出者	個人6名（44件）

- 「函館市観光基本計画（素案）」に対する意見の概要と市の考え方  
※意見の概要については、原文を要約して載せています。

1 第2章について

No.	意見の概要	市の考え方
1	特に宿泊業の人材不足が目立つ。観光・宿泊業に関する海外労働者の状況もデータとして見たい。	現在、海外労働者のデータは、本市として把握しておりません。
2	観光資源については、汐泊川の川下りや釣りなどのアクティビティもあるので、それも扱って欲しい。	令和5年度に汐泊川のカヌーやツリークライミングを盛り込んだアドベンチャートラベル体験会を実施したところであり、今後もアドベンチャートラベル普及のための取組みを進めることとしていることから、いただいたご意見は事業検討の参考とさせていただきます。
3	「五稜郭公園」は「観光資源の掘り起こし」（第1次計画）を再実施すべき。「五稜郭の景観を楽しむ公園」だけでなく、「歴史上で五稜郭が果たした役目を実感する歴史遺産」としても位置づける。そのためには、他の稜堡式陣地との連携が必要。	貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。
4	「酒蔵 ワイナリー」については、酒蔵のある地域を新しい観光資源と連携させるべき。例としては、「五稜乃蔵のある亀尾町と自然との連携（仮称）」。	貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。

No.	意見の概要	市の考え方
5	<p>「新しい観光資源」の候補だが、なりきれしていない資源がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふね遺産（咸臨丸，箱館丸，摩周丸）</li> <li>・日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」</li> <li>・海洋教育情報プラットフォーム（開陽丸記念館日本遺産。箱館戦争との関連が高い）</li> <li>・日本遺産への新たな申請候補（案）「幕末から明治初期にかけて、道南で活躍した艦船と人々」： 箱館の船大工である続豊治は、箱館に寄港したペリー艦隊の船をもとに、日本人の技術だけで洋式帆船を設計・造船。箱館奉行所の輸送・測量船である箱館丸の活躍 など多数。</li> </ul>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>「学びの場となる観光資源」として以下が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で最初の西洋料理店： 長崎は有名だが、函館も同じ年に、西洋料理店が開かれたという記録がある。安政6年（1859年）11月、函館の大町1丁目町人 重三郎は箱館奉行に「外国人向料理茶屋渡仕度旨」を出願。</li> <li>・開陽丸で出された西洋料理： 当時としてはめずらしかったコロッケやババロアなどを含む、晚餐会のコース料理を提供</li> </ul>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

## 2 第4章について

No.	意見の概要	市の考え方
7	<p>函館山は風が強いため、滞在時間を増やしつつ消費を増やすおもてなしがあると良いと考える。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
8	<p>富裕層への対応については、富裕層へのヒアリングとチーム作りが不可欠。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
9	<p>函館市への観光訪問動機を考える際に、『函館の本質』を再考することを提案する。インバウンドの特に富裕層を取り込む際や、国内のリピーターを増やす際には『一生に一度の経験』『本物の体験』『自己の変革』といった要素が必要。改めて文化・生活・産業に目を向けて、『本物の体験による自己の変革』と考えて観光訪問動機の目的として炙り出してみてはどうか。</p> <p>本物を市民が誇ることができる文化として育てる必要がある。</p> <p>具体的な候補としては、烏賊や真昆布をはじめとした海産物、世界遺産に登録された縄文文化と津軽海峡を挟んだ交流性、アイヌの時代から江戸時代の北方進出による戦いと和平、開港からの多種多様な文化の融合と偉人たち、遠洋漁業の歴史と街の繁栄と衰退といった切り口が考えられる。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>札幌から南下する、東京から北上する「一筆書きの観光ルート」の提案も必要に感じる。</p>	<p>本計画においては、ご指摘の必要性から、施策として P16「消費額の高いインバウンドの誘客」や P17「北海道新幹線札幌延伸を見据えた広域連携」を示しているところです。</p>
11	<p>ワーケーションも含み、観光客向けの短期託児施設なども含めて、観光業としても案内していく必要があるのではないか。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
12	<p>観光案内のデザインルールを策定しても良いのでは。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
13	<p>看板の解説文については、WEBにも同文掲示をすると、外国人が翻訳しやすい。QRコードをつけると良い。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
14	<p>地域交通と観光の交通は不可分。境遇が近い先進事例の収集とレポートを行って欲しい。鉄道・市電・バス・タクシー・フェリーなどをまとめた観光 MaaS の取組みの可能性も探り、観光客の利便性向上の実験も多く行ってもらいたい。</p>	<p>旅行形態や利用交通機関の分析をはじめ様々な情報収集を行い各種事業を検討してまいりたいと考えております。</p>
15	<p>電車・バス内に行先を知らせる手段(テキスト・音声・マップ経路図)があまりないため、スマホから QR コードで見られる仕組みなどがあっても良いのでは。</p>	<p>ご提案の内容については、市内の交通事業者と共有させていただきます。</p>
16	<p>Wi-Fi については、一度パスワードを入力すると、自動的につながってしまうため、1～2時間ごとにログインさせる形式の方が、回線が逼迫しないのでは。</p>	<p>HAKODATE FREE Wi-Fi については、令和5年度に機器更新を行い、回線速度の高速化や同時接続数の増加により、接続環境が改善しております。</p>
17	<p>観光基本計画でやってもらいたい事は、2次交通の利便性で、バスの本数を増やしてもらいたい。</p>	<p>バス運転手不足が深刻化してきており、本数の増加は難しい現状となっておりますが、このような状況の解消に向け、取り組んでまいりたいと考えております。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
18	<p>北海道新幹線札幌延伸を見据えた広域連携について、北海道新幹線札幌延伸により、国内外観光客の選択肢に函館が挙がる確率が増えるが、広域観光圏に函館圏をしっかり組み込まなければ函館圏はスルーされる可能性も否定できない。このことから、本項は外せない項目である。</p> <p>次に、並行在来線になると、現行制度では函館～新函館北斗・大沼公園駅をジャパンレールパス・大人の休日倶楽部パスで移動することができず、別に切符を買って移動する必要があり、煩雑さと支出は旅行の負の記憶になると同時に、リピートに繋がらず、次なる目的地へという旅行者も出てくる。国やJRと調整し、新幹線札幌延伸後も現行制度と遜色ない形で、新幹線と在来線を一枚の切符で利用できるよう、行動目標を明記すべき。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
19	<p>北海道新幹線が札幌に延伸するのに備えた予測と対策の視点が一切かけているので、それに対する見解をお願いしたい。函館で夜景を見た後に泊まらず新幹線で移動して、ススキノで飲んで札幌で宿泊するなど予想できることは多いはず。それに備えるための予想・予測・仮説を多く用意して欲しい。</p>	<p>北海道新幹線の札幌延伸は観光客等の行動に大きな影響を及ぼすと考えており、延伸によるメリット、デメリット双方に対応できるよう考えており、いただいたご意見は事業検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
20	<p>エクスカージョン・視察旅行については、説明する施設で資料の販売や説明の有料化を是非行ったほうが良い。公共施設でも同様。視察目的の人たちは、持ち帰って説明する資料を必要としており、紙・デジタル・動画など複数手段で渡せる資料や説明を用意すると良い。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
21	<p>MICEに関して、空手の小学生全国大会や世界的なプログラミングのカンファレンスで、函館・湯川に人が集まったが、湯川の観光地を歩いて巡る資源があまり整備されていない。海を見たくて、熱帯植物園の裏にただ佇んでいる観光客が多く往来しておりもったいない。</p> <p>また、市電の終点の雰囲気作りも行ってもらいたい。停留所が寒いので、そこをもてなす取組みも冬の観光には必須と考える。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
22	<p>閑散期である10月～11月においても誘客が見込める教育旅行の積極的な誘致について、「箱館戦争のVR観光ツアー」を提案する。</p> <p>旧幕府軍と新政府軍の大野藩が箱館上陸したのは10月。大野藩士が箱館戦争実記に書いた内容に沿った疑似体験を、現実ツアーとVRを組み合わせて提供。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
23	<p>「函館愛の醸成」について、郷土愛、そして住んでいる地域、自分にゆかりのある地域を愛することはとても大切。効果の最大化と、「観光が盛り上がる好循環を生み出す」ことを意識した行動目標を定める柱として、この基本方針を維持すべき。そして、市民にとって「生涯学習」の面からも観光産業と観光資源ともいえる歴史や風景、風土を学び・発信することは有効と考える。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
24	<p>ボランティアガイドなど、市民との連携とその成果が思ったほど見えてこないのので、そのあたりをどうしてきたかの達成度や経緯も報告して欲しい。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
25	<p>市民による、市内の観光も魅力発信にとっては大事。特に若者はチェーン店に行きがちだが、市内のカフェや個店に行きやすくすることにより、情報発信をしてもらえる取組みも必要に思える。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
26	<p>「新たな担い手を確保するため、市民に向けた啓発」とあるが、「参画」や「啓発」、「観光人材の育成」などという表現は大げさ。海外からの旅行者に、道や電車などを聞かれた時の案内に利用できる、簡単な英会話の事例を、市の広報のどこか1頁にカードとして印刷し、切り取って財布などに入れるなどして利用できる、というところから初めてはどうか。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
27	<p>観光業界に長く身を置き得た経験が活かされる場面は接客や緊急時の対応など多岐にわたる。雇用の安定は「誰でも安心して訪れることができる観光地を目指す」ことにつながる。</p> <p>「やりがい」だけではなく安定雇用と待遇改善が必要だが、労使協議に委ねざるを得ない。「人は宝」で待遇面の目標を定めるのが理想だが難しいと思う。</p> <p>観光業界の労働者が労組を結成することで、良好な労使関係を築き、処遇改善や社員間交流、共済活動、時には経営陣の法令違反を追求することができる。これを計画のなかに盛り込むのが理想だが、難しいと思うので以下を提起する。</p> <p>本計画において、観光業界の労働者が観光業界に定着するべく、観光関連産業で働く人たちの強固で持続的なネットワークづくりを主導することはできないか。そのなかでお互いを高め合い、懇親や意見交換を通じて結束を深め、観光活性化、職の定着化を深められないか。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>



No.	意見の概要	市の考え方
28	<p>一次産業の繁栄なくして函館観光は成り立たないという視点が本計画には欠けているように感じる。本計画では、農漁業体験などグリーンツーリズムなどの推進を挙げているが、一次産業という土台をしっかり支えなければ実現はあり得ない。観光産業発展、観光の価値を高めるために、一次産業を支え盛り立てることを本計画で明記すべき。</p>	<p>本市の施策は様々な分野に及ぶため、函館市基本構想を軸として、必要に応じて様々な個別計画を分野別に策定するなどし、方向性を市民にお示ししております。</p> <p>農漁業振興策につきましては、函館市基本構想、函館市基本構想実施計画（第2期函館市活性化総合戦略）と、函館市水産振興計画などで、施策の方向性を定めております。</p> <p>なお、本計画においては、函館の地域ブランドの強化・活用などの農漁業振興策と連携し、観光客に適切な情報発信を行い、農産品や水産品等の食のPRの推進を掲げており、さらなる漁農業振興にも寄与すると考えております。</p>

### 3 第5章について

No.	意見の概要	市の考え方
29	<p>函館市観光アドバイザー会議の結果や成果はどのようなものだったのか。</p>	<p>函館市観光アドバイザー会議では観光基本計画の進捗管理をはじめ、様々なご意見をいただいております。事業検討の際などの参考とさせていただきます。なお、会議の詳細は市のホームページで議事録を公開しておりますので、下記をご確認ください。</p> <p><a href="https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014101500077/">https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014101500077/</a></p>
30	<p>これまでのPDCAが見えないと、今後のPDCAも実施できないので、仮に少し結果が悪かったとしても、一旦現実として受け止める必要は感じる。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

4 その他のご意見について

No.	意見の概要	市の考え方
31	<p>学生と教員、先端の表現者を交えた、集客コンテンツ作りを継続的に行っていき、企業として育てていける仕組み作りが必要では。先端技術に触れることが、学生の働く意欲につながる。また、函館には社会人をしながら博士課程にいる腕利きがたまに函館に来ているので、そことのやりとりも肝要と考える。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
32	<p>著作権ものなどのパンフレットは、配布期限や部数制限があるので、それでも見られるように保管・閲覧できるように図書館と掛け合うとよいと思う。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
33	<p>観光看板・解説看板についても、メンテナンス(費用)計画を立てておいて欲しい。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
34	<p>函館は、海産物のイメージが強いが、農産物・畜産物など、いわゆる「北海道」のイメージの一旦も担っているので、そこに乗っかって収益を出すこともできそうな気がしている。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
35	<p>函館の観光の魅力だけでなく、改善の様子なども広く示すことで、その様子を見て函館のファンになってもらいたい。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
36	<p>市内への発注に関して、これまでの市内の力を増すための購買・発注をしてきたと思うので、その点では引き続き行っていくのが良いと考える。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>
37	<p>観光閑期の農作業や雪中アクティビティなどのスタッフの紹介など、年中安定した就労機会の確保のための連携などを図る必要がある。</p>	<p>貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
38	観光税の使い道の例。看板の整備、観光ボランティアや市民団体などと連携をとることにより、精度の高い案内を作れるのではないか。	貴重なご意見として、事業検討の参考とさせていただきます。
39	視察ビジネスの方向性も探りたい。	ご意見として、受けとめさせていただきます。
40	各ホテルのオンデマンドコンテンツで、函館にまつわる作品を観られるようにするなど、あっても良いのでは。	ご意見として、受けとめさせていただきます。
41	函館市は魅力的なので、色々観光部にも「営業」や「ラブコール」が来ると思うが、そちらの事務負担についてもなかなかのものと考えるが、そのあたりをうまくやる・チャンスを見逃さない方策も知りたい。	事業者の選定については、プロポーザル等の手続により行っているところです。
42	カラー電車も50年になるので、写真パネルもやって欲しい。歴代のミスはこだでの写真パネル展もやってもらいたい。	ご意見として、受けとめさせていただきます。
43	水産資源が身近にある函館に水族館が無いのが残念だと思う。観光目的、又は子供達が遊べるように水族館と遊園地が併設された施設が欲しい。全国展開しているファーストフード店を誘致するのも良いが函館の水産資源を生かした施設を作りたい。	水族館の建設につきましては、これまで幾度かにわたり議論がされてきましたが、子どもたちが自然環境を学びながら楽しめる公共施設「海の生態科学館」の整備について、平成18年に基本計画案を公表し、建設に向けた検討を行いました。財政状況が厳しいなか、議会や市民から、莫大な建設費や運営費の負担が懸念され、平成19年に事業断念を表明し、現在に至っております。

No.	意見の概要	市の考え方
44	国内、海外の旅行者に観光・滞在先として函館を選んでもらう、選び続けてもらう意識の醸成が必要である。他の観光地の動向もしっかりつかむことを計画、目標に明記し、そして北に針路を取るきっかけと理由が「函館があるから」と言ってもらい続けるような観光地づくりをひとつの目標に加えていただきたい。	貴重なご意見として、参考とさせていただきます。

意見等を考慮した結果の修正案	意見による修正はありません。
お問い合わせ先	函館市観光部観光企画課 TEL：0138-21-3396    FAX：0138-21-3324 E-Mail：hako-kan1@city.hakodate.hokkaido.jp